

## 安全に働くために

出光タンカー（株）

三等航海士 田邊 伸吾

「安全」、私はこの言葉の定義自体が実は非常に難しいと思います。そもそも安全とは何か、どのような環境や状態が安全だと言えるのか。その定義は、人によって様々だと思います。私は社会人として初めての乗船を VLCC にて過ごしています。もちろんのことですが入社するまでは練習船での乗船経験しかありません。初めての作業や経験ばかりで、勉強の日々を過ごしています。

様々な作業に参加する中で、普段からこの言葉をよく見聞きします。それは「Safety First」、日本語では「安全第一」です。安全を最優先として作業などに取り組むということで、これは非常に重要なことだと思います。しかし、その安全というのはどのような状況なのでしょう。辞書によると安全とは「危険な状態でないこと。物事が損傷したり、危害を受けるおそれのない」状態です。しかしながら船上では、日頃から多くの危険因子が存在しています。動揺に伴う転倒の危険などもそれらに含まれると思います。これは陸上における生活でも一緒です。つまり、「完全に安全」な状態はあり得ないのです。私たちが普段から口にする「安全」とは、「比較的に危険因子が少なく、事故などが起こる可能性が低い状態」を表していると考えます。

では、船上において「安全」に作業するためには何が必要なのでしょう。私は「不断の注意力」ではないかと思います。この不断の注意力とは、様々な事象に対して敏感に注意を傾けること、また周囲の状況を広く観察し、分析して、その中から危険を見つけ出す力だと思います。ここで私の経験を述べたいと思います。

その日は Void Space 内の点検作業があり、私は一等航海士、三等航海士と共に Void Space に入りました。その時の私は何も深く考えずにいましたが、一等航海士に酸素濃度計測器などの各種機器での計測値は重要であるが、五感も同時に活用し、周囲状況を常に意識することの重要性を教えて頂きました。機器は警報を鳴らして警告してくれるが、壊れる可能性もあります。また、ただ漠然と見るだけでなく、普段の状況と何が違うのか、もし違うなら何が原因なのかを点検する、このような意識が欠けていたことを知りました。さらに、同様の体験を船橋でも経験しました。ある日、午前 8-12 の当直に入直しました。その日はイナートガス装置の整備作業があり、船橋からでもイナートガスの放出が確認できる状況にも関わらず私は気づかず、船長に言われて初めて気づきました。その際、通常の状態を知ることの重要性を教えて頂きました。

これらの経験から、常日頃からの船の状況を知ることの重要性を学ぶことが出来ました。普段の状況をきちんと把握しておくことにより、船内巡視などの際に通常と違う状態、すなわち異常の発見につながると思います。この普段の状況とは何かは、経験を積みば積むほどより養われていくと考えますが、経験の浅い私には養われていません。それでも常に

周囲の状況を意識し、注意を向けることはできます。これから先、乗船を重ねてこの普通の状況を五感でしっかり身に付け、異常を違和感として感じられるように努力していきたいと思います。

私は先に「不断の注意力」について述べました。人はずっと注意力を維持することはできません。集中力や注意力を常に高い状態に維持することは不可能だと思います。それでも、人によって程度は異なるものの、なるべく集中力や注意力を維持するために出来ることがあると私は考えます。大切なのは、疲労をためないこと、すなわち健康であることです。

疲労がたまると、どうしても集中力が低下してしまいます。集中力が低下すると、普段は注意している場所、例えば階段の昇降などの単純なことでさえ事故につながる可能性がより高くなります。実際に、私もそのような経験をしました。入港作業により中々休めなかった時、疲労がたまり普段は躓かないような何もないところで足がもつれて態勢を崩して転倒しそうになりました。幸い転倒せず、また周囲に何もなくて怪我には至りませんでした。もし突起物の周辺で転倒したら、重大な怪我につながるかもしれません。船長からは、出入港などで忙しく、どうしても十分に休む時間が確保できない際でも、可能な限り休めるときに休むよう言われました。先輩航海士は、休めるときにはしっかり休み、当直や部署で高い集中力を発揮しています。私にはそのメリハリがまだついていなかったことを痛感しました。このメリハリの重要性は、船上に限らず陸上での生活においても共通することだと思います。休めるときにしっかり休むことで疲労をため込まず、集中力や注意力が求められる場面でその能力を発揮することが重要です。また、日頃から自身の健康を意識して生活し、しっかりと体調管理を行うことで、その能力は発揮できると考えます。

船舶を運航するには安全に、且つ高度な技術が求められています。これから私は技術力＋安全に作業をする意識を身につけなくてはなりません。しかし、船上というその特殊性から、どうしても疲労やストレスがたまりやすい環境に置かれています。その環境下で「不断の注意力」を最大限に発揮するために、周囲の状況の変化を日々機器や五感を活用し、また高い注意力を維持するためにメリハリをつけた生活を行うことが重要であると考えます。日頃から意識して周囲に目を配り、また休息をとる機会に休息をとることは私でもできることです。まずはこのことを第一歩として、今後、乗船経験を積み、「不断の注意力」を如何なく発揮することで「安全」に船を運航する航海士になるべく努力していきたいと思います。

以上